

2016年9月、創立130周年を迎える宮城学院。そんな節目の瞬間を学院全体で盛り上げていくため、新たに「宮城学院130th VIEW」を創刊しました。今回も「宮城学院の歴史」(全4回シリーズ)を振り返ります。

## 「130th VIEW」の由来

タイトルの”VIEW”には「130周年記念事業やこれまでの歴史など、宮城学院に関するさまざまなものを、皆さまに広い範囲で見てほしい」との意味が込められています。

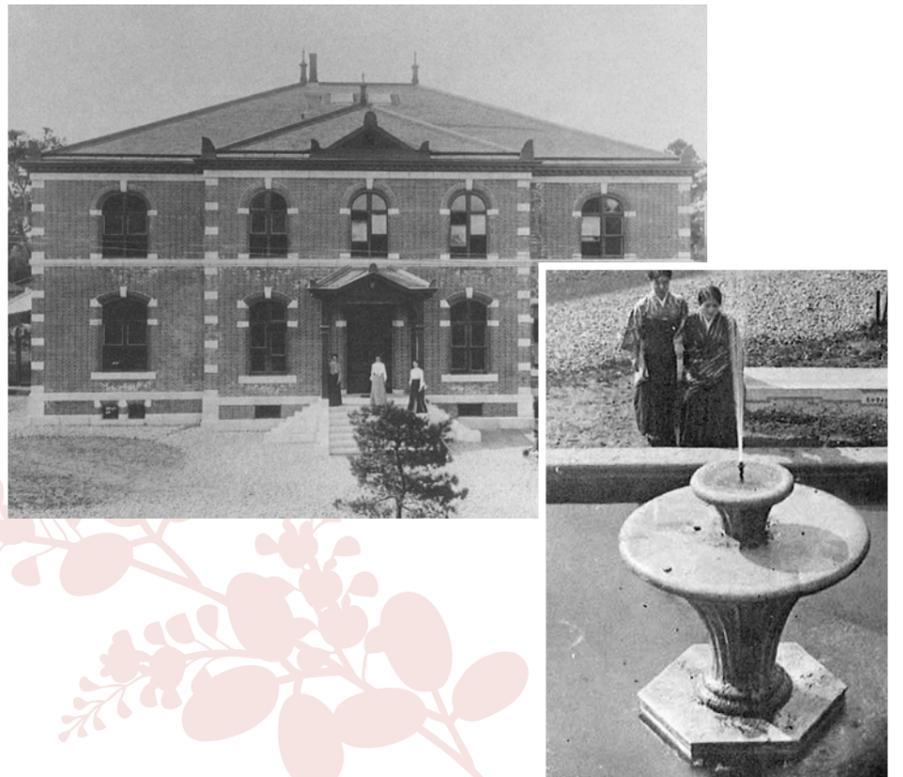
# The History of Miyagigakuin

～宮城学院の歴史～

## 第2回 東三番丁時代

### 東三番丁へと移転し新たなスタート

1886(明治19)年の創設以来、“女子教育の先駆者”として多くの卒業生を輩出してきた宮城学院。創設から18年後の1904(明治37)年には、キャンパスを東三番丁へと移転。同年6月には第一校舎が完成し、新たなスタートを切ります。またMG生になじみの深い噴水(建学の泉)も、1928(昭和3)年に「六角池」として建設されました。



### 3つの時代を見てきた東三番丁キャンパス



仙台空襲で、大きなダメージを受けた東三番丁キャンパス。しかしその後、大学本館や第二校舎新館、大学1号館など、近代的な建物が次々と建設されていきました。1980(昭和55)年、現在の桜ヶ丘キャンパスに移転するまでの約80年間、東三番丁キャンパスは、明治・大正・昭和の3つの時代にまたがり、多くの卒業生を送り出してきました。

### 創立130周年ロゴについて

宮城学院高等学校(当時)の伊達香澄美さんがデザインしました。真ん中には、宮城学院を表す「MG」の文字、そして右上には、その文字を導くように、校章にも使用されている鳩が羽ばたく様子が描かれています。

カラーは本学のスクールカラーである、えんじ色を使用しています。

